



プロバスケットボールクラブ「名古屋ダイヤモンドドルフィンズ」



地域ぐるみで子どもたちの成長を支え、
夢を応援する地域スポーツプロジェクト

IGアリーナカップ



IGアリーナカップは、名古屋市の中学生を対象としたバスケットボールの大会です。産官学が連携し、プロがプレーするIGアリーナを決勝の舞台に、地域活動として予選大会を行い、地域交流や担い手育成と活動を通じて創出される社会的便益から財源を生み出すモデル構築を目指す事業です。

IGアリーナカップ2025取り組み紹介



IGアリーナカップ2025は、北区八王子中学校区、西区浄心中学校区、瑞穂区田光中学校区、3地域男子3チーム、女子2チームが参加。各地域の中学校をホーム会場として、地域住民が大学生らと協働し予選試合を企画・運営しました。予選試合は、男子は各チーム4試合（ホーム2試合、アウェー 2試合ずつ）、女子はホームとアウェーを1試合ずつ2試合を行いました。決勝は、女子：2月7日（土）、男子：2月8日（日）に、IGアリーナでドルフィンズの試合の前の時間帯に実施し、男女とも田光中学校区が優勝しました。

1

やりたい人がやりたい事をやる
新たなコミュニティの創出



2

多様な主体と連携しながら
新たな地域活動の創出



決勝戦の
様子



地域実行委員や参加生徒のコメント



浄心中学校地域
前田拓哉さんのコメント

最初は不安でしたが、実際にIGアリーナの会場を見た時に『ここで子どもたちが試合できたら、良い思い出になる』と心から思い、出来る範囲で取り組みました。地元の飲食店から協力を得たり、地域ボランティアの方々と交流を通じて、地域の結束が強くなったと感じます。これからも、この『地域の輪』を広げていけたら良いと感じますし、このような機会が得られたことに感謝しています。



八王子中学校地域
福田ゆう子さんのコメント

実行委員長として活動を始めた当初は、正直不安しありませんでした。でも、思い切って飛び込んでみると、商店街さんをはじめ、学区の住民のみなさん、店舗さんが快く協力してくださる姿に感動しました。スポーツを通して地域と子どもたちとの繋がりができ、子どもたちにとって、普段の生活では経験できない最高の舞台でプレーする一生の宝物作りに携われることに生きがいを感じています！



優勝チーム 田光中学校地域
西川大和さんのコメント

プロが試合を行うアリーナでプレーする機会をいただきありがとうございます。自分がスポーツをできることは当たり前のことではなく、地域のいろいろな方の支えがあってできているということがIGアリーナカップを通じて分かりました。スポーツができることに感謝をしながら、またこの舞台でプレーできるようにこれからもがんばっていききたいと思います。

IGアリーナカップ2025を通じて創出される社会的便益の測定

中京大学 舟橋弘晃研究室
SPORTS ECON LAB



①地域ボランティア調査

地域ボランティア活動による社会的便益を、ウェルビーイング評価法と仮想評価法（拠出意思時間ベース）を用いて推計

②選手調査

大会参加・出場による社会的便益を、ウェルビーイング評価法と仮想評価法（支払意思額ベース）を用いて推計

③観戦者調査

試合観戦による社会的便益を、仮想評価法（支払意思額ベース）を用いて推計

各調査の推計結果を統合し、 IGアリーナカップ2025の 総社会的便益を定量化

下限シナリオ：①②③の各推計値に対して、統計的有意差や回答の確実性といった厳格な基準を適用した値を合算した総額

中間シナリオ：①②の仮想評価法および③の推計値を合算した総額

上限シナリオ：①②③の各評価法による推計値から最大となる値を合算した総額



みる、する、ささえるスポーツが生み出す価値から企業を中心に社会投資を呼び込む仕組みの構築を目指す。

名古屋市副市長 杉野みどり



地域の実行委員の方をはじめ、学生や地域のボランティアさんなどが、準備や運営を担われたことで、大会を通じて子どもたちが、ドルフィンズさんや地域の皆さんを身近に感じることができたと思います。

決勝の舞台では、プロと同じ会場・環境で試合することができ、これはみなさまの支えがあってこそ経験することができたと、子どもたちが感謝している姿がとても印象的でした。

名古屋市としても、こうした取り組みを引き続き応援していきたいと思っています。